



第三十八回

# 斎王まつり

6月 6 土 (雨天の場合中止)

斎宮歴史博物館会場

## 斎王市 前夜祭

15時～21時 17時～21時

開会式・斎王他出演者披露

FM三重でおなじみの

「あつ」と「えりか」のトーク&ライブ

三重高校ダンス部 出演予定

6月 7 日 (雨天の場合中止)

## 出発式・禊の儀 斎王群行・社頭の儀

12時頃～15時頃 さいくう平安の杜～上園芝生広場～斎宮歴史博物館

## 斎王市・アトラクション

10時～15時 斎宮歴史博物館会場

三重県明和町



配役

斎王  
さいおう

梅田 優歩  
(伊勢市)

子供斎王

杉山 紗菜  
(明和町)



第三十八回 斎王まつりを迎えて

令和二年 新型コロナウイルスが、日本国内はもとより全世界で猛威を振るい始めています。

そんな中、二月には「子ども斎王」が杉山釉菜ちゃんに決まり、そして「第三十六代 斎王」に梅田優歩さ  
んが選ばれました。

会議ができない、選考会が開けない中、その配役選考会は初めての試みで、VTRでの選考会となりました。

画を選考委員の方々に選考していただくという画期的な選考会となりました。会としましてこの情勢の中、何ができるか模索を重ねての試みでした。

今年度は、サブタイトルを「悠久の平和を祈る」としていきます。

そのタイトルどおりに今年一年、第三十六代斎王の梅田優歩さんと子ども斎王の杉山柚菜ちゃんには、新型コロナウイルスの終息と人々の幸せをお祈りしていただけるものと思つております。

そして斎王まつり実行委員会一同、皆様の健康とご多幸をお祈りしております。

斎王まつり実行委員会  
広報班

(雨天中止)	6/7 (日)	(雨天中止)	6/6 (土)
14時50分～	17時～21時	15時～21時	15時～21時
社頭の儀	前夜祭	斎王市	斎王市
13時30分～	斎宮歴史博物館会場	斎宮歴史博物館会場	斎宮歴史博物館会場
上園芝生広場	開会式	改元記念「大来皇女物語」	改元記念「大来皇女物語」
禊の儀	斎王他出演者披露	斎王他出演者披露	斎王他出演者披露
13時00分～	特別ゲスト	特別ゲスト	特別ゲスト
さいくう平安の杜から	あつとえりか	あつとえりか	あつとえりか
斎宮歴史博物館会場まで	出発式	アトラクション	アトラクション
12時15分～	斎宮市	斎王市	斎王市
さいくう平安の杜	10時～15時	10時～15時	10時～15時
協力参加	斎宮歴史博物館会場	斎宮歴史博物館会場	斎宮歴史博物館会場
皇學館大学雅楽部	出発式	アトラクション	アトラクション
斎王群行	12時15分～	10時～15時	10時～15時
13時00分～	さいくう平安の杜から	斎宮市	斎王市
さいくう平安の杜から	さいくう平安の杜から	アトラクション	アトラクション
斎宮歴史博物館会場まで	斎宮歴史博物館会場	斎宮歴史博物館会場	斎宮歴史博物館会場

## もくじ

斎王まつり配役	2
斎王まつり童・童女出演者	4
斎王群行をめぐることども	6
	9
斎宮跡の発掘調査	10
いつきのみや地域交流センター	12
あつとえりか紹介	13
斎王一覧	14
	15
図書の紹介 / 実行委員会組織体制	16
斎王まつり実行委員会活動	17
群行衣裳	18
フォトコンテスト	20
斎王役を務めて	22



# 斎王群行をめぐることども

斎宮歴史博物館 学芸普及課長 榎村 寛之

群れて行く、と書いて群行といいます。斎王が都から伊勢斎宮への旅 자체を儀式ととらえ、こういう言いかたをするわけです。斎王まつりの行列がこの斎王群行を模したものだということはご存じの方も多いかと思います。しかしこの言葉は正式な法制用語ではなく、たとえば斎宮の決まり事を詳細にまとめた十世紀の法律細則書『延喜式』の斎宮関係の条、通称『延喜斎宮式』にも出てきません。そんな群行のことどもについて少しお話をしてみましょう。

## 一、群行に参加する人数について

この言葉は貴族の日記や、有職故実書、つまり儀式についての手引書の中でも使われるようになつたものです。参加者ではなく、記録した人や仕切る人の印象からできたことばだといえるでしょう。まさに人が、アリの引っ越しのようにわらわらと都を出ていく行列、それが群行なのです。

斎王の行列は伊勢への旅の他にもあります。

たとえば斎王は伊勢神宮に年間三回、九月神嘗祭と六月・十二月の月次祭の時に行列しますが、この行列を群行ということはありません。また、京の賀茂神社に仕えた賀茂斎王、通称斎院も、賀茂祭、つまり今の葵祭の時に普段暮らしている斎院から下鴨、上賀茂社へと行列し、それは賀茂祭の行列の中心ともなるものですが、これも群行とは言いません。ではこれらの行列と群行はどう違うのでしょうか。

群行はとにかく人が多く、規制も厳しいのです。まず群行に先立ち、朱雀門の前などで臨時の大祓が行われます。さらに群行のある九月は忌月とされ、北辰（北極星）を祀る祭祀（現世利益が多い）や、改葬などは沿道諸国では禁止されます。斎王の旅は厳粛な雰囲気の中で進められており、長暦二年（一〇三八）の群行の詳細な旅日記が残されている藤原資房の日記『春記』（旧田中家所蔵本）でも、地域の人々との触れ合いなどはほとんど書かれていないのです。そして斎王の旅は、たんに斎王を送るだけではありませんでした。

たとえば斎王は伊勢神宮に年間三回、九月神嘗祭と六月・十二月の月次祭の時に行列しますが、この行列を群行ということはありません。また、京の賀茂神社に仕えた賀茂斎王、通称斎院も、賀茂祭、つまり今の葵祭の時に普段暮らしている斎院から下鴨、上賀茂社へと行列し、それは賀茂祭の行列の中心ともなるものですが、これも群行とは言いません。ではこれらの行列と群行はどう違うのでしょうか。

群行はとにかく人が多く、規制も厳しいのです。まず群行に先立ち、朱雀門の前などで臨時の大祓が行われます。さらに群行のある九月は忌月とされ、北辰（北極星）を祀る祭祀（現世利益が多い）や、改葬などは沿道諸国では禁止されます。斎王の旅は厳粛な雰囲気の中で進められており、長暦二年（一〇三八）の群行の詳細な旅日記が残されている藤原資房の日記『春記』（旧田中家所蔵本）でも、地域の人々との触れ合いなどはほとんど書かれていないのです。そして斎王の旅は、たんに斎王を送るだけではありませんでした。

『延喜斎宮式』によると、斎宮で月料、つまり月給をもらう人たちは男女あわせて500人を超えていました。そのすべてが都から伊勢にやつてくるわけではないでしょうが、忘れてはいけないのは、二年余り無住だった斎宮に着いた斎王は、翌日から普通に暮らしていくこと、群行した意味がないことです。つまり斎王が到着する以前に、斎王の生活を支える人々や生活調度は整えられていないといけないわけでも、その中には当然都から運ばれた物も沢山あつたはずなのです。それらを誰が運んでいたのか、斎王群行の月には、もつと沢山の人たちが都から伊勢に向かっていたと考えられます。

古代最後の官撰、つまり国家が編纂した歴史書『日本三代実録』は、九世紀後半の社会や政治を知る重要な資料です。その元慶五年（八八一）正月十九日条には、陽成天皇の時代の斎王で、異母姉妹の讃子内親王の帰京についての記事があります。この時は父の清和上皇が亡くなつた帰京なので、伊賀から大和を通りますが、その時にも、斎王に直接関わらない下働き



きの人たちなどは行きと同じ近江路を通ることになつていました。そして斎王の陪從（隨行者）は二十九人、さらに河陽宮（今の京都府大山崎町）から難波津（大阪市）に船で向かい、陸路で戻る時には一〇〇人と記録されています。帰京の時でもこのくらいいたわけですから、群行に関わる人たちが五〇〇人というのもあながち誇大とはいえないでしょう。

まさに斎王一人のために大量の人や物が動く大移動、それが斎王の群行、群れて行くと呼ばれた旅の有様だったのです。

## 二、群行と牛車

さて、『源氏物語』「賢木」の巻には、先の皇子の娘（光源氏の恋人、六条御息所が母親）の女王が斎王となり、都を離れる日の出来事が記されています。その中には

「（斎王が）退出されるのを、お待ち申し上げよ

うとして、八省院（朝堂院のこと）に並べ立てた供奉の車から、のぞいてる衣の袖口や色合いも、めずらしい趣で、奥ゆかしい様子だから、殿上人（高級貴族）たちも、めいめい別れを惜しんでいる人が多い。（現代語訳は、玉上琢彌『源氏物語評釈』角川書店 一九六五年 より）

という一節があり、斎王が「別れの小櫛」を天皇から受ける儀式（映像展示『斎王群行』を）

ご覧ください）の時に、その南側にある広い朝堂院の庭中に女房達の牛車が待機している様子が記されているのですが、この描写についてかつてさんざん悩んだことがありました。それは博物館開館時、展示室Ⅰにある斎王群行模型を創った時のことです。もともと斎王群行行列がどういう構成だったかを書いた資料はありません。そこで『延喜斎宮式』に見られる参加者と

『儀式』という資料に記された九世紀の賀茂祭行列とを組み合わせて、問題のない範囲でラフスケッチを描いたのですが、引っかかったのが牛車の事でした。

この時代に女性が移動をする時はたしかに牛車を使います。だから、斎王（賀茂斎院）が参

加する賀茂祭の行列には斎王や供奉（隨行）の女官が乗る牛車が出ました。しかし牛車は本来京内のような広い道を通るための道具で、鈴鹿峠のようなおそらく細く険しい山道を果たして通れるのか。少なくとも四人は乗れる、つまり現在の軽乗用車以上の大きさがあつたと考えられた牛車が、今でも二車線道路の鈴鹿峠を果たして越えられたのでしょうか、あるいは当時の牛車で行くのはいかがなものだろうか、と云つていて（訳は榎村「『春記』長暦二年九月、良子内親王群行記事原文と現代語訳」『伊勢斎宮の歴史と文化』所収 塙書房 一〇〇九年）と記されているからです。

そもそも源氏物語が書かれた一条天皇の時代には、天皇から見ると従姉妹にあたる恭子女王という斎王が二〇年以上も伊勢にいたのですが、彼女が伊勢に向かったのはおそらく紫式部が宮仕えする以前、つまり紫式部は、この場面を宮中での斎王の旅立ちの儀式の体験から書いているわけではないのです。そしてこの斎王の旅立ちには、斎王の母の六条御息所が同行しており、彼女は当代屈指の文化人ということになっていますから、この車は御息所に仕える女房たちの車だった可能性も高く、通常の斎王群行とは同列ではない、ということも考えられたのです。

この疑問を氷解させたのは、その数年後に活字化された『春記』（田中家本）で、そこには女房たちに綱代車が五両用意されたことが明記されていたのです。しかしこれで問題解決とは行きませんでした。続けて「人々は、狭い路を牛車で行くのはいかがなものだろうか、と云つていて（訳は榎村「『春記』長暦二年九月、良子内親王群行記事原文と現代語訳」『伊勢斎宮の歴史と文化』所収 塙書房 一〇〇九年）と記されているからです。

そしてこの危惧は、鈴鹿峠を越える時に的中しました。鈴鹿の山道は険しいこと極まりなく、棧（さん、横板を何枚も渡して広げた道）があるが、それでも所々で下馬をしたとあります。



そして、女房の車は、**隨身**（お供の武士）がいるがどうしようもない、とも記されています。やはり牛車で峠を越えるのは大変な難事だったのです。

鈴鹿の山道の入り口に着いたのは巳の刻のはじめ（午前十時ごろ）、女房達の車が峠を越えて、今の亀山市関町にあつた鈴鹿頓宮に着いたのは午後十時頃だつたといいますから、いかに大変な一日

だつたかがうかがえます。しかし平安時代の女性たちは、この峠を越えていたのです。女房の中には下車して馬で来た者

もいたといいます。斎王の従者には馬も与えられており、馬を使える女性たちもいたのです。なんという強さ。御簾の奥

でひつそりと気楽に暮らす女房たちは、実はこれくらい生命力にあふれた人たちだつたのです。

### 三、鈴鹿峠を越えること

このように、斎王群行の最大の難所は

鈴鹿峠でした。そのためか、斎王群行にかかる歌にも、鈴鹿山を詠み込んだものが少なからず見られます。

六条御息所が娘とともに斎宮に下つたというエピソードの典拠になつたと考え

られている、元斎王で村上天皇の女御（妃）になつた斎宮女御徽子女王が、貞元二年（九七七）に娘の斎王規子内親王の群行を追つて鈴鹿峠を越えた時には、こんなやり取りがありました。

世にふればまたも越えけり鈴鹿山

昔の今になるにやあるらん

（斎宮女御集）

と、規子内親王の返歌

鈴鹿山しづのをだまきもろともに

ふるにはまさることなかりけり

（同）

という有名な贈答歌があります。

この歌は、『伊勢物語』に見られる

いにしえのしづのをだまきくりかへし

昔を今になすよしもがな

という歌を贈答歌ともに踏まえていて、『伊勢物語』といえば斎宮の物語、と当

時見なされていたことをうかがわせ興味

深いものなのですが、ここでは「ふれば」「ふる」という言葉に注意してみたいと思ひます。

このように、斎王の群行については、こ

の三十年ほどの間に、その内容やその背景など色々なことが分かつても来ていま

す。斎宮歴史博物館の映像展示『斎王群行』はその成果の結集とも言うべきもの

です。しかしながら分からぬこともあります。

おわりに 群行を寿ぐ相撲人

多くの場合、相撲人は地域の有力者な

で、これは今の松阪市周辺の有力者と斎

王の関係をうかがわせる興味深い資料で

もあるのです。

があります。これは「成る」「為る」つまり達成されるという意味にもつながるのです。

斎宮女御の夫であった村上天皇が、娘の斎王樂子内親王の群行の際には、こんな歌に硯を添えて旅を行く娘に送つてあります。

思ふことなるといふなる鈴鹿山

越えてうれしき境とぞきく

（拾遺和歌集）

鈴鹿山は、天皇の願い（思ふこと）が達成される（なる）山であり、その境を越

えることが、斎王の大きな任務だったことをうかがえます。

鈴鹿といえど、平安時代には、山賊や鬼女の伝説で知られた所です。そんな難所を越えた先にあるのが、伊勢の国なのです。

鈴鹿といえど、平安時代には、山賊や鬼女の伝説で知られた所です。そんな難

所を越えた先にあるのが、伊勢の国なのです。

さて、最後に、新しい手がかりになるかも知れないエピソードを一つ。良子内親王の群行の記録には、地域の人々との

触れ合いがほとんど記されていませんが、一つだけ例外がありました。壱志頓

宮（現在の松阪市内）に、「相撲人頼経」

という人物が色々な手土産を携えて訪ねてきたというのです。相撲人というのは、宮中で行われる相撲節会にその国の代表として参加する専業の人、つまりプロの

お相撲さんで、最も強い「最手」と呼ばれた人などは抜擢されて貴族の従者にな

ることもありました。もともと相撲とは邪を祓う儀式の一つなので、斎王の旅を祝福に現れても歓迎されたのでしょう。

多くの場合、相撲人は地域の有力者な

で、これは今の松阪市周辺の有力者と斎

王の関係をうかがわせる興味深い資料で

もあるのです。

# 国史跡斎宮跡の発掘調査

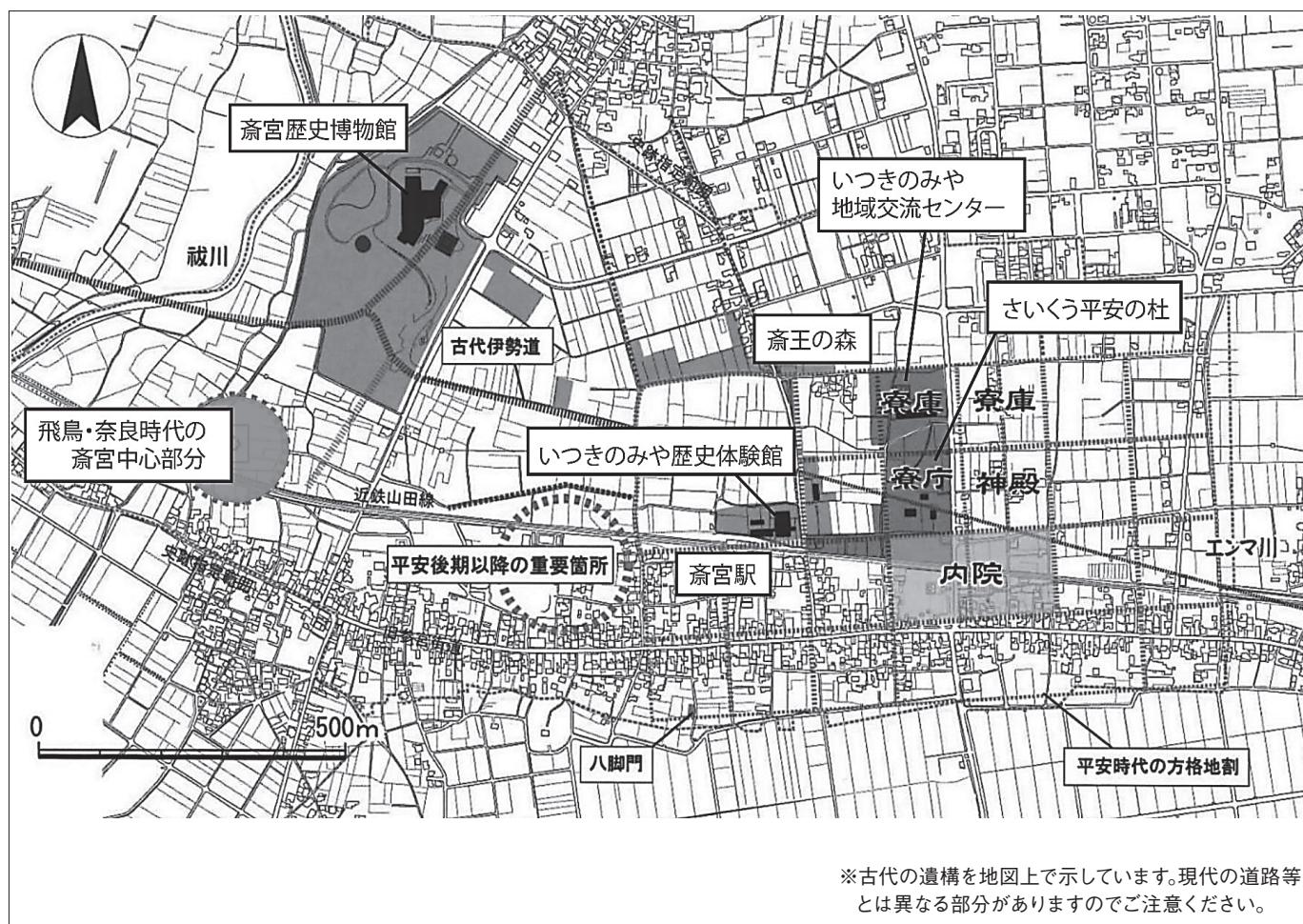
（飛鳥時代斎宮の実態解明へ）

国史跡斎宮跡では、斎宮歴史博物館が中心となり、地域の皆さまや明和町の協力のもと、一九七〇年から実態解明のための発掘調査を続けてきました。これまでの発掘調査は「さいくう平安の杜」の周辺での調査に重点を置いてきましたが、その結果、奈良時代末から平安時代初め（八世紀末～九世紀前半）に、京都の平安京のような都と同じ設計方法で、当時としては東海地方最大級の古代都市が営まれていたことが明らかになっています。

平成三〇年度第一九三次調査では、掘立柱塀で囲まれた飛鳥時代の方形区画の北東角を発見しました。これにより、区画が東西約四〇メートル・南北五〇メートル以上ということがわかりました。そしてその区画内部には掘立柱建物が見つかりました。また、第一九五次調査では、その方形区画

れる、飛鳥時代から奈良時代（七世紀末～八世紀後半）の斎宮の実態はあまりよくわかつていませんでした。そこで、斎宮歴史博物館は現在、同時代の斎宮実態解明に重点に置き、発掘調査を行っています。

は、飛鳥時代から奈良時代（七世紀末～八世紀後半）の斎宮の実態はあまりよくわかつていませんでした。そこで、斎宮歴史博物館は現在、同時代の斎宮実態解明に重点に置き、発掘調査を行っています。



第1図 史跡斎宮跡全体図

の西側で多くの倉庫が立ち並ぶ「倉院」が発見されました。これらの遺構の方向は、真北を向くのではなく北から東に約三三度傾くという共通した特徴があります。令和元年度には、第一九七次調査を第一九三次調査地の南側隣接地で実施し、第一九三次調査で検出した堀立柱塀の続きと堀立柱建物2棟（うち1棟は建て替えあり）を確認しました。そして、この掘立柱塀に付属する東門を確認しました。この他特徴的な遺構として、堀立柱建物の西側に添う南北方向の溝があり、これは建物と西側の空間とを区切る塀のようなものと考えられます。

令和元年度の調査では、飛鳥時代の区画には、東側に出入り口である門とその区画内部に建物を伴うことがわかり、一部ですが区画の構造を明らかにすることできました。

飛鳥時代の方形区画の内部ではどのような人々が、どのような活動を行っていたのか、そしてここに「斎王」がいたのか。今回の調査成果を検討するとともに、今後の発掘調査でも明らかにできる材料が増えることでしょう。引き続き、斎宮跡の発掘調査にご注目ください。

飛鳥時代の方形区画の内部ではどのような人々が、どのような活動を行っていたのか、そしてここに「斎王」がいたのか。今回の調査成果を検討するとともに、今後の発掘調査でも明らかにできる材料が増えることでしょう。引き続き、斎宮跡の発掘調査にご注目ください。



写真1 第197次調査区全景(東から)

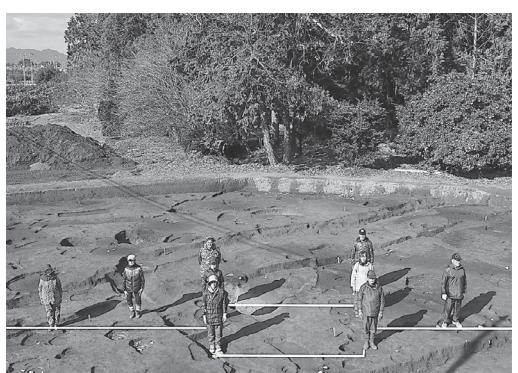


写真2 門(人の立つ部分が柱。東から)



# いつきのみや地域交流センターの紹介

『いつきのみや地域交流センター』と少し長い名前のこの施設。どのような施設でしょうか？今回はいつきのみや地域交流センターについてご紹介いたします。

近鉄斎宮駅から歩いて約5分のところに平成29年4月にオープンしました。

『いつきのみや地域交流センター』は外観が白色統一されており、2階建ての施設です。有料の

貸しスペースがあり、会議や講演会だけでなく、様々な用途で使用できます。これまでに同窓会・囲碁やかるた・ダンス・コンサートなどでもご利用いただいています。

「休憩スペース1」「休憩スペース2」「エントランス」とあります。スペース1は正面に木がふんだんに使われ、広さは62坪（205m<sup>2</sup>）と広く椅子や机を使用してゆったりと席を設けると約100名様収容できます。プロジェクター用のスクリーンや音響・マイク・給湯室も完備しております。スペース2は南向きで中庭への出入りができる窓があり、とても明るく開放的です。こちらにはスクリーン等はありませんが、長方形型で広さは27坪（90m<sup>2</sup>）あり、こちらは約50名様収容可能です。休憩スペース1と2、エントランスとを仕切っているのは可動式のパーテーションで、大きなイベントの際には全て取り外して使用できます。休憩スペース1と2で椅子のみの利用で最大300名収容できます。南向きの暖かな日が差し込むエントランスでは、斎王まつりで実際に斎王役が乗る「葱華輦」の展示を行っており、間近にご覧いただけます。おまつりの日は残念ながらご覧いただけませんので、後日ご来館ください。

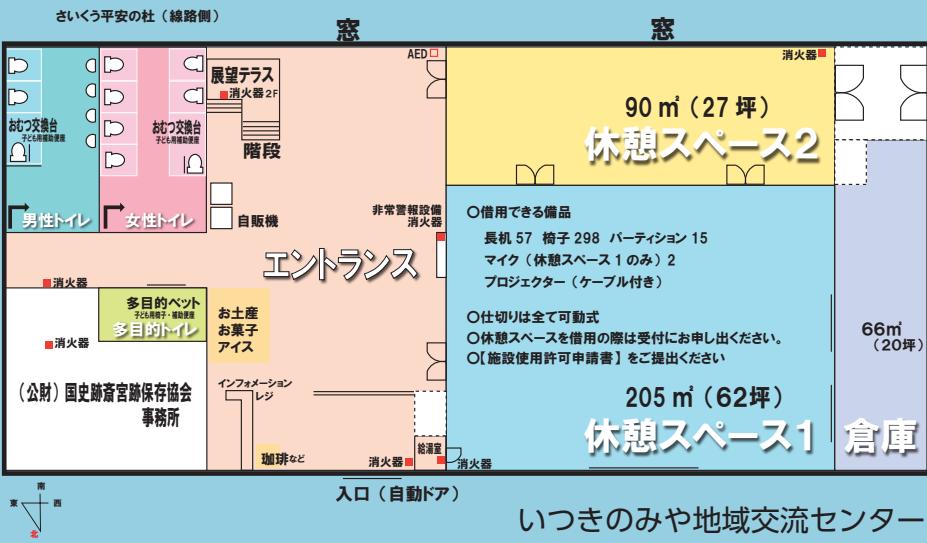
またオリジナル商品やお菓子などの販売も行っております。持ち込み弁当など持参し休憩もできます。奈良時代の天平衣装をイメージした装束の体験は服の上からカンタンに着ることができます。また、奈良時代の天平衣装をイメージした装束の体験は服の上からカンタンに着ることができます。女性は全体的に明るい色目の装束に、からや小物もあります。男性は、帽子にしゃくもあります。

少し『いつきのみや地域交流センター』のことがお分かりいただけたかと思います。

それでは、一歩外へ出てみましょう。玄関前に広がるのは芝生広場と石畳の広場です。広場には車両は搬入時のみ進入でき、一般車両は駐車スペースまでとし広場には入れませんので、安心してウォーキングや運動をしたり、小さなお子様を歩かせたりボールなどで遊んだりして広場をご利用いただけます。ひと休憩できるあずまや

ります。今流行りのSNS映えすること間違いなし！お子さまは3歳くらいから着付けすることができますので、ぜひご家族やお友達同士で体験してみてはいかがでしょうか。1時間自由に散策でできるのもうれしいところ。着て、さいくう平安の杜やいつきのみや歴史体験館で写真を撮りながら、コスプレを楽しんでみるのも良いかもせれませんね。

2階には展望テラスがあり、斎宮跡の景色を見渡せます。階段が苦手な方も1階のエントランスから同様な景色が楽しめます。南には近鉄線があり、電車が大好きなお子様も安心してご覧になります。



## いつきのみや地域交流センター

### いつきのみや地域交流センター

開館時間 9:30~17:00

休館日 月曜日（祝日の場合は翌日、年末年始12/29~1/3）

管理:公益財団法人 国史跡斎宮跡保存協会

住所:〒515-0321 三重県多気郡明和町斎宮2811番地

TEL:0596-63-5315

E-mail:center@itukinomiya.jp

ホームページ:https://www.itukinomiya.com



# FM三重でおなじみの あつとえりか



## シンガーソングライター「あつ」

三重県出身

・ギター弾き語り女性シンガーソングライター。  
2006年フジテレビ系「めちゃ×2イケてるッ!」エンディングテーマ「笑学校(しようがっこう)」でメジャーデビュー!  
メッセージソングを中心に繰り広げるライブは、学校や研修会でのトーク&ライブとしても好評!また三重県交通安全キャンペーンソングをはじめ、三重県津市のご当地グルメ「津ぎょうざ」PRソングなど、様々な企業・団体のイメージソングやキャンペーンソング、小学校の校歌(作詞)などの制作も手掛ける!  
また、全国各地を歌い巡る一人旅で、120泊以上の車中泊を経験し、現在はキャンピングカーオーナー。

ソロキャンプもこなすアウトドア派。

「あつ」公式ホームページ <http://www.atunti.com/>

### 【レギュラー番組】

◆レディオキューブFM三重  
イオンモール明和プレゼンツ  
「あつとえりかとみんなのラジオ」メインパーソナリティー

◆ZTV(津ケーブルテレビ)  
「ひるナマ」リポーター

## 多田 えりか 1.14生 O型

愛知県小牧市出身

学歴:同志社大学卒

資格:社会福祉士(特別養護老人ホームにて勤務経験)、アロマテラピー1級、食農3級

趣味:健康、美容、コスメ、ショッピング、カフェ、はにわ集め、ソウル・ファンク、こどもと遊ぶバラエティから社会派まで、素人さんから芸人さんまでどんなチュエーションでもアドリブをきかせ、現場を明るく盛り上げます!

### 【最近の主な司会実績】

名古屋まつり会場行事、旅まつり名古屋、にっぽんど真ん中祭り、ふるさと全国県人会まつり、尾張名古屋の職人展、オールトヨタビッグホリデー、トヨタ白川郷自然学校10周年記念式典

中部電力×アピタ・ピアゴ IHフッキングショー

食の健康&ウォーキングイベント他

ビジネス・サミット~東海・北陸「うまいもの」大商談会~

スギ薬局グループ 健康・キレイ応援フェスタ

ベトナムフェスティバル in愛知

あいちグルメまるごと食べ隊フェスタ、愛知県警ふれあいフェスタ  
衆議院議員総選挙、愛知県知事選挙、名古屋市長選挙  
名古屋選挙フェスタ 各メインイベント

ここらの健康フェスタなごや

KIRIN お客様感謝イベント(山口智充トークショー) in エアポート  
ウォーク名古屋

斎王一覽

斎王の伊勢滞在期間は短くて一年、長い人では三十二年という例があり、年齢は五歳から十五歳の少女に集中しており、最高で群行時三十二歳という斎王もいます。

\*は女王(天皇の娘以外の皇族女性)  
「」内は実在の確認できない斎王  
○は斎宮に群行した斎王  
△は斎宮に群行しなかつた斎王

# 図書の紹介

私達の「斎宮」について  
よりも多くのことを知つていただくために  
一地元で読める斎宮関係図書のご紹介ー

凡例  
○ふるさと会館（図書館）で貸出可  
☆いつきのみや歴史体験館・博物館ミュージアムショップで販売  
◇斎宮歴史博物館図書ホールで閲覧可

「斎宮」の入門書として	「斎宮」の歴史として 「斎宮」を知りたい方に	「斎宮」を行の旅した 「群行」の道を歩いてみたい方に	「斎宮」を小説で 読んでみたい方に	「斎宮」についてみたい方に
谷口布有緒文 里中満智子画『斎王ロマン 都わすれの詩』明和町○☆ 中野イツ著『斎宮物語』明和町○☆ 山川修司著『語り部の竹の斎王語り』近代芸文社○☆◇ 榎村寛之著『伊勢斎宮と斎王』塙書房☆	奥井宏忠著『別れの御櫛－斎の宮と斎宮寮』光書房○◇ 明和町教育委員会編『郷土史に見る斎王』○◇ 三重の文化財と自然を守る会編『伊勢斎王宮の歴史と保存』○◇ 『同上』◇	内田康夫著『斎王の葬列』角川書店○◇ 池田美由喜著『鷺草－大津皇子とその姉と－』新風舎○◇ 郡俊子著『倭姫宮の御巡行』勢陽文芸○◇ 村井康彦監修『斎王の道』向陽書房○☆◇ 『哀しみの伊勢大来斎王』近代文芸社○◇ 『哀しみの伊勢大来斎王』近代文芸社○◇	田畠美穂著『斎王のみち－伊勢斎宮の文化史－』中日新聞本社○◇ 『斎宮志』大和書房○◇ 『続斎宮志』砂子屋書房○◇ 『斎宮劄記』砂子屋書房○◇ 所京子著『斎王和歌文学の史的研究』国書刊行会○◇ 『斎王の歴史と文学』国書刊行会○◇	津田由伎子著『斎王』学生社○◇ 山中智恵子著『斎宮女御徴子女王－歌と生涯－』大和書房○◇ 榎村寛之著『律令天皇制祭祀の研究』塙書房○◇ 中川ただもと著『斎宮和歌の解釈と鑑賞』紫明の会☆ 服藤早苗著『歴史のなかの皇女たち』小学館☆

## 第38回（令和2年度）斎王まつり実行委員会組織体制

（敬称略・順不同）○班長 ○副班長

本部	代表	森田 均	名誉会長（町長）	世古口 哲哉			
	副代表	森下 清	顧問	木戸口真澄	西場信行	浜井初男	上村一弥
	本部役員	東谷 泰明 土井 祐治		西井 正	辻 丈昭	森下 清	山川充造
	事務局	山中 いずみ					長岡成貢
会計監事	徳田 均	久世 晃	相談役	辻 孝雄 田中 貢	森島啓之 新田一子	橋本久雄	西川道子
	任務分担の内容						渡邊幸宏
総務班	総務の実施 協賛金の計画 グッズ販売・スタンプ判・等 斎王市の実施 のぼり・看板計画実施 出発式・禊会場の片付け		○早川潤一	○北山房夫 森島啓之 田端正俊 樋口文隆	○市野秀世 田中真司 岩本温行 下村幸一	竹内克巳 田中 貢 乾 健郎 高橋浩司	大西俊次郎 小林順一 奥山幸洋 長岡 孝
着付会場班	着付会場内の管理 出演者の移動 記念写真		○森 菜津子	○北川和樹	○江 京子	石田豊喜	澤 恒一
着付班	着付け準備と後片付け		○西宮幸代	○衣斐喜代美 富山正美 中川啓子 高杉恵子	○菊矢照子 森下昌子 加藤早和美	○北山良子 西川美代子 寺西照美	田中政子 新谷千恵子 直井佳代
まつり会場班	前夜祭の実施 アトラクションの実施 社頭の儀の実施 群行の実施 出発式の実施 禊の儀の実施 社頭の儀の実施		○東谷泰介 前夜祭・アトラクション担当 ○永井健太 禊・出発式・ 斎王群行 担当	○野上恒治 ○世古口典剛 中島 宏 石田真也 前田 航 小林邦久 石田藤生	○北村哲也 ○中谷優太 乾 秀治 辻 崇宏 岩上達平 佐々木久夫 和佐田照夫	○浜口浩和 伊藤佳史 中井啓悟 北川修平 大和谷勇太 中川裕正 和佐田道子	○間宮辰典 西道 涼 西岡 潤 井尻季幸 長谷川新 松本友輔
舞台設営班	舞台の設営及び片付け		○関岡武夫	○竹内和持 岩佐康則	○西岡信行 伊串金市	○小林正明	秋山修一
広報班	ポスター・パンフレット原案作成 広報・宣伝事業計画		○山内 理				



## 第37回（元年度）斎王まつり実行委員会活動報告（敬称略）

（敬称略）

平成31年

1月 10日(木) 第1回梅まつり会議  
 11日(金) 成人式チラシ入れ  
 15日(月) ポスター校正会議(本部・広報班)  
 20日(日) 会計監査  
 26日(土) 役員会(総会について)  
 29日(火) 第2回梅まつり会議  
 31日(木) 本部会議  
 2月 1日(金) 総会  
 8日(金) 日本遺産活用推進会議  
 10日(日) 出演者募集締切  
 15日(金) 役員会(出演者書類選考)  
 19日(火) 総務・財務班会議(協賛金について)  
 22日(金) 梅まつりのぼり立て  
 24日(日) 子ども説明会(子ども斎王抽選 交流センター)  
 28日(木) 衣裳出し(着付け班)  
 3月 2日(土) 梅まつり(斎宮歴史博物館にて) (斎王役 中保 業平役 糟谷)  
 6日(水) 役員会(選考会について)  
 10日(日) 配役選考会(いつきのみや歴史体験館)  
 15日(金) 第4回日本遺産会議  
 第3回梅まつり会議  
 26日(火) 松阪警察署打ち合わせ(代表)  
 30日(土) 所作指導会(講師 安永先生)  
 4月 9日(火) コミュニケーションズ主催 対談(代表 斎王役 橋本 前斎王役 中保)  
 リーフレット・パンフレット校正会議  
 12日(金) 斎王取材 夕刊三重  
 16日(火) 中勢警備打ち合わせ  
 17日(水) 松阪ケーブルテレビ打ち合わせ  
 18日(木) 斎王市会議  
 19日(金) リーフレット回覧(明和町全戸配布)  
 皇學館大学リクリエーション部打ち合わせ  
 東海テレビ「祭人魂」打ち合わせ取材  
 22日(月) 役員会 自治会長会議(代表出席)  
 24日(水) ポネット打ち合わせ  
 25日(木) キッチンカ 会長 打ち合わせ  
 東海テレビ「祭人魂」打ち合わせ取材  
 26日(金) 第1回全体会議 皇學館雅楽部打ち合わせ  
 和令元年  
 5月 5日(日) 作業 (竹きり のぼり立て準備 看板出し ステージ製作準備)  
 8日(水) 鉄板敷き  
 10日(金) 足場組み  
 11日(土) 斎王まつり告知イベント イオンモール明和にて着付け体験  
 12日(日) 出演者説明会・リハーサル・ステージ製作・大道具製作  
 17日(金) アトラクション会議  
 19日(日) 午前 のぼり立て/午後 子ども出演者説明会リハーサル・ステージ組み立て  
 21日(火) MC打ち合わせ

22日(水) 知事表敬訪問 役場職員説明会(本部・各班長出席)  
 24日(金) 最終全体会議  
 26日(日) 最終ステージ作り 依頼出演者説明会  
 28日(火) 三重テレビ「旬感三重」(斎王役 橋本 前斎王役 中保)  
 29日(水) 斎王市テント立て  
 30日(木) FM三重「まつり告知」事務局出演 着付班 衣装準備  
 31日(金) ステージライト合わせ(斎王)  
 6月 1日(土) 前夜祭  
 2日(日) 斎王まつり  
 9日(日) 片付け・反省・打上  
 10日(月) 足場はずし・鉄板はずし  
 12日(水) 衣裳片付け  
 21日(金) 日本遺産活用推進会議(事務局出席)  
 7月 4日(木) 役員会(反省会)  
 12日(金) フォトコンテスト応募締め切り  
 20日(土) 大淀花火大会 三車揃い踏み実行委員会式典 代表・斎王役 橋本挨拶  
 26日(金) フォトコン1次審査  
 30日(火) 役員会(フォトコンテスト入選・入賞作品選考)応募者44名応募作品84点  
 8月 20日(火) 第37回斎王まつりフォトコンテスト表彰式について記者クラブ発表  
 30日(金) 第37回斎王まつりフォトコンテスト入賞作品選考  
 9月 1日(日) 第37回斎王まつりフォトコンテスト表彰式  
 第37回斎王まつりフォトコンテスト入賞・入選写真展  
 (斎宮歴史博物館にて9月23日まで)  
 11日(水) 観月会 衣裳準備  
 12日(木) 役員会(臨時総会について)  
 15日(日) いつきのみや観月会(斎王役 橋本 女官役 北岡)  
 20日(金) 臨時総会 観月会 衣裳片付け作業 実施班会議  
 24日(火) フォトコン写真収納  
 27日(火) のぼり修理  
 10月 2日(水) 役員会(37回について)  
 31日(木) 役員会(38回について)  
 11月 5日(火) のぼり修理  
 8日(金) 三重テレビ「旬感三重」いつきのみや秋まつり告知・北岡さん出演  
 13日(水) いつきのみや秋まつり衣裳準備  
 14日(木) いつきのみや秋まつり (斎王役 北岡)  
 20日(水) 衣裳片付け  
 21日(木) のぼり修理  
 12月 1日(日) 第38回斎王まつり出演者 募集開始  
 5日(木) 夕刊三重取材「募集について」事務局対応  
 6日(金) 午前38回ゲスト「あつ」さん打ち合わせ  
 午後FM三重「募集について」事務局出演  
 9日(月) のぼり修理  
 12日(木) 役員会  
 20日(金) 梅まつり会議(代表出席)  
 25日(火) 事務所大掃除  
 27日(金) 事務所仕事納め

# 群行衣裳



長奉送使 【ちょうぶそうし】



檢非違使 【けびいし】

平安時代から室町時代にかけて京中の警察を担当した職。元来、平安京の治安維持は京職や衛府の任であったが、特定の官人に京中の警察を担当させることがあり、それが檢非違使となり、やがて衛府や京職・彈正台などの権限を吸収し、王朝国家有数の警察機関となつたのである。

看督長 【かどのおさ】

監送使ともい。斎王一行を伊勢まで送り届ける群行の最高責任者。沿道における警察権が与えられており、任を終えると直ちに帰京しました。

れ、貞觀・延喜式制に繼承されているが、その後次第に増員され、長元八年（一二〇三五）の『看督長見不注進状』（『平遺』五二九～三七）では左右合わせ十五人を数える。獄直や犯罪の捜査・追捕等を任務とする。尉を中心として編制される警察部隊の一員として出動することがあるが、単独ないし少数の従者を率い、事に従うことが多い。しばしば行き過ぎた捜査や追捕を行い、京民から頼りにされる一方で、恐れられもした。その武力は悪鬼魔神を潛伏するという信仰を生み、『徒然草』二〇三には主上御惱の時、五条の天神に看督長の鞍をかけることが見え、『神道名目類聚抄』には守門の神を看督長と称したとある。

斎宮十二司官人 【さいくうじゅうにしけんじん】  
斎宮寮に属して十二の仕事をする司で勤務する官人

駕輿丁 【かよちょう】



斎王の乗る輿（蓼華輿）を担ぐ人です。



1. 冠 かんり
2. 緾 あいがけ
3. 太刀 たち



1

2

3

## 斎王【さいおう】

天皇の即位ごとに、未婚の内親王（天皇の娘）あるいは女王（天皇の兄弟の娘など）の中から占いで選ばれ、天皇の譲位や崩御、あるいは肉親の不幸などにより解任され、都に帰る決まりになつてきました。伊勢神宮の祭りには、六月・十二月の月次祭と九月の神嘗祭に関わるのみで、ふだんは斎宮の中で都と同様の生活を送っていたものと考えられています。

古代から中世にかけての文学作品に登場する斎王も多く、『源氏物語』『伊勢物語』など、多くの文献に残されています。

## 十一单【じゅうにひとえ】

十二单とは近世になつてからの呼び名で、正しくは女房装束、または裳唐衣といいます。单衣の上に桂を重ね、打衣、表着の上にベストのような唐衣をはおり、腰には前部のないプリーツスカートのような裳をつけます。貴族の女性の晴の衣裳（正装）です。

1. 垂髪	2. 唐衣
3. 表着	4. 打衣
5. 衣（桂）（枚数を重ねている）	6. 单
7. 長袴	8. 裳（全体）
9. 裳の小腰	10. 裳の引腰
11. 檜扇（柏扇）	12. 帖紙
13. 日陰の糸（玉かずら）	

※斎王が付けていたかどうかは定かではありません。



には袴と裳をつけます。袴は紺の長袴（若年未婚は濃色）、裳は背にあてて結び、後に長く垂らして引きます。

## 内侍【ないし】または命婦【めいふ】

斎宮で働く女官たちの最高責任者として、乳母や女孺の上にいる立場にありました。

## 女別当【によべつとう】



## 采女【うねめ】



「めのわらわ」ともいう女官で、一等から三等に分かれており、それぞれに課せられた実務を担当していました。

## 女孺【にょうじゅ】



内侍や宣旨が、斎王の住むエリアで公的性格をもつ仕事をこなす女官であるのに対して、乳母のように、斎王のプライベートな「宮家」としての用向きを担当していたのではないかと考えられますが、詳しいことはわかりません。

都では、地方の郡司の娘から選ばれ、天皇の御前などに奉仕していました。しかし、斎宮に采女がいたかどうかについてはよくわかつていません。

## 童・童女【わらわ・わらわめ】

都の官人が、家族で斎宮に赴任したということも考えられますから、その子供達が斎宮内に住んでいたという可能性性はあります。しかし、群行の一員として加わっていたというることはなかつたよう



# 斎王ラオトコンテスト

斎王賞



「出発の前夜」 明和町 出口 美智子

明和町長賞



「令和の大来皇女」 明和町 井上 清一

斎宮歴史博物館館長賞

明和町議会議長賞

「やんごとなき出立に向けて」

伊勢市 井村 義次



「時代は次代へ」 津市 川口 瑞貴

## 特別賞



「斎王の微笑み」 明和町 間宮 修

## 特別賞



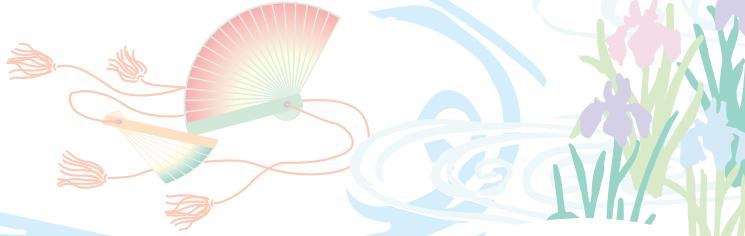
「愛らしい子ども斎王」

志摩市 山本 幸平



「楽しい群行」 明和町 西岡 育生

## 特別賞



「楽しい群行」 津市 紀平 茂晴

## 特別賞



「楽しい群行」 津市 紀平 茂晴

## 斎王まつりフォトコンテスト作品募集

### ◆サイズ

・カラーまたは白黒作品でサイズは四つ切のみ。

### ◆応募締め切り

・令和2年7月15日(水)当日消印有効  
(郵送中の事故、破損については責任を負いかねます。)

### ◆応募方法

・応募用紙を作品裏面に貼付、郵送または斎王まつり事務所受付。

### ◆応募上の注意事項

・応募作品には、応募者本人が撮影したもので一人2点以内(未発表の作品)に限ります。

・応募用紙の各項目に楷書で記入し、題名・お名前にはかならずフリガナをつけてください。  
(複数応募の場合は「○ピーしてください。」)

・入賞、入選作品については、あらためてデーターをお借りすることがあります。

・パンフレットやポスター、ホームページなどへの使用権は主催者に帰属します。

・応募作品のご返却はいたしません。

### ◆賞

・入賞は、10賞(斎王賞ほか)、入選は10作品

### ◆選考方法

・作品は斎王まつり実行委員会で選考いたします。

### ◆発表

・HPにて発表いたします。

・入賞者には直接通知いたします。(8月上旬頃)

### ◆応募先

・斎王まつり実行委員会「フォトコンテスト」係  
・斎王まつり実行委員会事務局

◆応募・問い合わせ先  
TEL 0515-103211

・三重県多気郡明和町斎王宮281-1  
・斎王まつり実行委員会事務局

電話 0596-5210054



第35代斎王役  
橋本 茉奈

## 斎王役を務めて

平成から令和へと御代代わりの記念すべき年に、斎王役を務めさせていただいたことを心から嬉しく思います。また、この一年間多くの皆さんに支えていただいたお陰で、一年間のお役目を無事果たせましたことを心より感謝申し上げます。

「第37回斎王まつり」では出演者に所作指導が入り、より優美で風雅な世界をお届けすることができになりました。さらに改元記念「大伯

皇女物語」が上演されたことで、斎王制度の始まりとそれに対する人々の願いがお伝え出来たのではないかと思います。まさに「新しい歴史のはじまり」というサブタイトルにふさわしいおまつりになりました。

歴史の中で築かれた「斎王らしい」という印象を守りつつ、「私らしい斎王」とは何だろうかと模索する一年でございました。見ていただいたすべての皆様の心に、新たな印象をお届けすることが出来たなら幸いです。

斎王まつりを支えてくださった関係者の皆様、そして斎王まつりを愛してくださる皆様に、深く御礼を申し上げます。

新しい時代ははじまつたばかりです。斎王まつりは伝統を大切にしながら、これからも進化していくことでしょう。ぜひ皆様の目で、その進化を見届けていただけないでしょうか?

どうぞ斎王まつりをこれからもよろしくお願ひいたします。

## 子ども斎王を務めて

私は夢にまで思っていた「子ども斎王」になれ、とてもうれしかったです。

「子ども斎王」のきものを着る時に、女別当さんたちに優しくしてもらいました。「きちんと着るね」とか「寒くなかった」と声をかけてくれてうれしかったです。あの時、優しくしてくれてありがとうございました。

今年で斎王まつりも第38回を迎えます。毎年たくさんのお客様、誠にありがとうございます。また協賛金等、あたたかい御支援もいただき重ねて御礼申し上げます。

前夜祭におきましてはFM三重で御活躍中のシンガーソングライターあつさんとパーソナリティの多田えりかさんがゲストとして出演していただく予定です。各団体での個性あふれるアトラクション（ダンス・演奏等）を楽しんでいただく中、司会にトークにと祭りを盛り上げていただきます。

クライマックスではステージ上で艶やかな衣装に身を包んだ今年の斎王を始め、出演者の紹介をさせていただきます。

7日の日曜日は、斎王群行を中心に出発式・禊の儀・斎王群行・社頭の儀の各儀式を実施します。

日頃の喧騒を忘れゆっくりと進む時間の流れの中の各儀式を御覧ください。

年齢を問わず楽しんでいただけると思いますので是非御来場いただければと思います。



子ども斎王  
飛矢地 愛結

# 新しい歴史のはじまり

斎王まつり実行委員会代表 森田 均

今年で斎王まつりも第38回を迎えます。



葱華輦復元模型(斎宮歴史博物館蔵)



日本遺産

## 主催／斎王まつり実行委員会

後援◎三重県、明和町、明和町議会、明和町教育委員会、明和町観光協会、明和町商工会、斎宮歴史博物館、(公財)国史跡斎宮跡保存協会、(一財)民族衣裳文化普及協会  
中部運輸局三重運輸支局、近畿日本鉄道株式会社、NHK津放送局、三重テレビ放送(株)、三重エフエム放送(株)、松阪ケーブルテレビ・ステーション(株)、皇學館大学  
協力◎有レイルロード、北村音響

問い合わせ◎斎王まつり実行委員会事務局 TEL.0596-52-0054 FAX.0596-52-7274

<http://saioh.jp>

定価100円